

ナショナル・ステューデント・クリアリングハウス  
—アメリカの学位・学籍登録情報の保管と相互利用サービス—

National Student Clearinghouse: Background and Services

ジェフリー・M・タナー／訳：吉川裕美子  
Jeffery M. TANNER / Translated by YOSHIKAWA Yumiko

1. ナショナル・ステューデント・クリアリングハウスとはどのような組織か	99
1.1 使命の宣言 (ミッション・ステートメント)	99
1.2 設立の背景	100
1.3 学生ローン・プログラムと学籍登録の新しい記録システム	100
1.4 クリアリングハウスのパートナー：大学，金融機関，連邦政府	100
2. クリアリングハウスの学位・学籍登録データ	101
2.1 全米3,100以上の加入高等教育機関	101
2.2 データの特徴：完全，最新，包括，确实	101
2.3 データの種類	102
3. クリアリングハウスのサービス	103
3.1 コアから発展したクリアリングハウスのサービス	103
3.2 大災害とクリアリングハウス	106
3.3 全国規模の学生追跡と卒業率調査	107
ABSTRACT	110

# ナショナル・ステューデント・クリアリングハウス —アメリカの学位・学籍登録情報の保管と相互利用サービス—

ジェフリー・M・タナー\*, 訳: 吉川裕美子\*\*

## 要 旨

ナショナル・ステューデント・クリアリングハウスは、アメリカにおける高等教育コミュニティによって1993年に創設された非営利組織である。全米学生の学位、学籍登録等に関する情報をネットワークを利用して入手保管し、個人ないし組織からの求めに応じて情報確認のサービスを提供している。現在、クリアリングハウスのプログラムに加入している高等教育機関は3,100以上に及び、これらの機関には全米の学生の9割以上が在籍している。クリアリングハウスのサービスの利用者には、学生、加入機関はもとより、学生ローンの貸付機関、連邦政府、さらに雇用者等が含まれる。本稿は、ナショナル・ステューデント・ハウスの使命と創設に至る背景をふまえて、そのサービスの概要を紹介し、日本の関係者の参考にすることを目的とする。

## キーワード

アメリカ高等教育, ナショナル・ステューデント・クリアリングハウス, 学位・学籍登録データ, 学籍登録証明, 学位証明, 学生追跡

### 1. ナショナル・ステューデント・クリアリングハウスとはどのような組織か

ナショナル・ステューデント・クリアリングハウス (National Student Clearinghouse 直訳では「全米学生情報交換センター」の意: 訳者注) というアメリカの比較的小さな非営利組織が、地球を半周近く離れた日本に暮らす人々の関心を引くとは、誰が想像しえたであろうか。このようなことが起こるからこそ、今日の世界は規模が縮小しているとの考えが勢いを増し、人類の相互連携が強化されるのであろう。それはまた、他者の経験から学んで成長し、学習したことがさらに次の基礎になるといふ、人間の探究心のあらわれでもある。このように新たな努力が積み重ねられることによって、無数の他者が恩恵を受けられるようになる。

本論ではまず、ナショナル・ステューデント・

クリアリングハウスはどのような組織かという問いにこたえを示し、共通理解を深めることから始めたい。

#### 1.1 使命の宣言 (ミッション・ステートメント)

ナショナル・ステューデント・クリアリングハウス (以下、クリアリングハウス) は非営利組織であり、そのプログラムに加入している教育機関の学生に関して、学籍登録などの教育情報の主たる保管場所 (central educational repository) として役立っている。その使命は、次のように言い表される。

「学生の学籍登録 (enrollment), 成績 (performance), および関連した情報の交換と理解 (exchange and understanding) を容易にして、教育のコミュニティー (共同体) を支援すること。」

\* ナショナル・ステューデント・クリアリングハウス 副社長

\*\* 大学評価・学位授与機構 学位審査研究部 教授

## 1.2 設立の背景

クリアリングハウスが全米の舞台に登場したきっかけは、学生向け連邦の貸付プログラム (student loan program 以下、学生ローン・プログラム) を取り巻く厄介な記録システム (reporting system) に対処する必要が生じたことにあった。この学生ローン・プログラムは、個人が誰でも高等教育を受けられることを保証するべく設けられたものである。この投機 (ベンチャー) を確実に成功させるには、任意の金融取引がそうであるように、監査証跡 (audit trail データシステムの各段階を原記録から出力まで追跡できる記録: 訳者注) と会計の説明責任 (fiscal accountability) が欠かせない。それゆえ学生ローンの債権者 (loan holder) に対して、増えつづける学生ローンの債務者であるところの学生の所在と現状 (location and status) を報告することが、大学と政府にとって共有の責務となった。

ところが、間もなくこの記録システムは、管理するのが難しく、処理の遅さが悩みの種であることが明らかになった。ジェット機、新幹線、月ロケットの時代に、あたかも馬に乗って旅行するに等しいほどであった。プロセスを複雑にした要因は、データ送信の遅さと、絶えず発生する思わぬ人為的ミスである。

そのうえ、債務不履行率 (default rate) が公表されると、未返還率が学生ローン・プログラムを支える納税者に妥当と考えられる程度をはるかに超えて上昇していたとわかり、学生ローン・プログラムに対する国民の信頼は失われてしまった。実際のところ返還不能者の割合はとても低いという事実が後で判明したのだが、記録システムへの反映が遅いために、現実にはまだ学生で、ローン返還の繰り延べ資格を有する多くの学生が、不履行者であるように見えてしまったのである。

## 1.3 学生ローン・プログラムと学籍登録の新しい記録システム

まさにこうした一触即発の情勢において、学生ローンの返還開始時期を監視できるようにするより良い方法はないかと、金融機関と高等教育の関係諸協会が学籍登録状況の報告機能に関して議論し始めた。ここで登場したのが、クリアリングハウスである。クリアリングハウスの創設者で、社長を務めたダニエル・ベーマー (Daniel R.

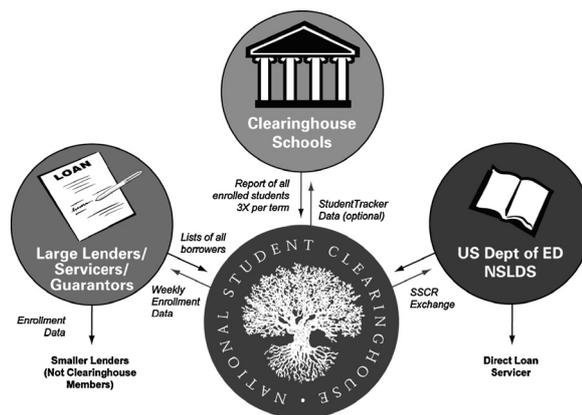
Boehmer) は、より良い方法を提供するだけでなく、実行するという挑戦に応じようと考えた。彼は少数ながら同じ意識をもった人々を呼び集め、この巨大で厄介な記録システムを、電子時代に適応させたやり方に移行する計画を練り上げた。

ベーマーは学生の利益に焦点をあてることを第一に考えていたので、すぐに成功の手ごたえを実感した。一方で学生は、古い記録システムにうんざりしており、他方で大学は、学生がローンの状態に気を揉まずに勉学に精力を注ぐことができるように望んでいた。貸し付けを行っていた金融機関は、学生が不愉快な経験をせず、その後人生を終えるまで顧客として抱えておきたいと望んだ。要するに、学生が自らの経験に満足するならば、誰にとっても有利な筋書きとなる好機が生じたということである。

## 1.4 クリアリングハウスのパートナー: 大学, 金融機関, 連邦政府

ダニエル・ベーマーは新しい記録システムを設計し終えると、次なる手段として大学と金融機関に働きかけ、このプログラムに参加するよう求める行動に着手した。彼が設計した記録システムは、基本的には次のようにごく簡単である (図1を参照)。

大学は、記録作業の代理業者 (agent) としてク



Database = All enrolled students + all Title IV borrowers

- SSCRs
- Deferment forms
- Out-of-school notifications
- Enrollment status reductions
- Address/name changes
- Web access for guarantors, schools & lenders
- Deferment eligibility notifications
- Enrollment histories
- Hotline service for guarantors, students, schools & lenders

図1 クリアリングハウスのコア・サービス

クリアリングハウスを指定し、学年度を通じて30～45日ごとに、学籍登録している学生の現状に関する電子登録簿 (electronic roster) をクリアリングハウスに送る。それと並行して、金融機関は貸し付けを行なっている学生全員分の電子登録簿をクリアリングハウスに送る。クリアリングハウスは、大学から送られた学生の電子情報ファイルを、金融機関から入手したリストと照合し、学生の情報を貸付機関に提供する。さらにクリアリングハウスは、大学が連邦政府に報告の義務を負っている、全米学生ローン・データシステム (National Student Loan Data System, NSLDS) への学籍報告 (Student Status Confirmation Report, SSCR) も取り扱う。

クリアリングハウスへの加入は自由意志であるとはいえ、すべての当事者がこうして即時にかつ劇的な利益を手にした。電子フォーマットの形で学生の学籍登録に関する正確な情報が適時に報告され、人間の介入を大きく減じたことにより、人為的ミスが大幅に減少したからである。

## 2. クリアリングハウスの学位・学籍登録データ

### 2.1 全米3,100以上の加入高等教育機関

クリアリングハウスが1993年に創設されて以来、このベンチャーに自発的に加入する機関はめざましく増加してきた。高等教育機関の形態は学部、大学院、2年制、4年制、州立、私立、営利 (for-profit, proprietary)、職業技術 (vo-tech) とさまざまだが、今日、全米の高等教育機関に学籍登録している学生の91パーセント以上が、クリアリングハウスを通じて記録されている。個々の学生からみれば、クリアリングハウスに自分の学籍登録状況に関する情報がある。大多数の学生については、卒業情報も保有されている。

より詳しい数値を挙げてみよう。現在、アメリカの高等教育機関に学籍登録している約1,550万人の学生に関する情報が、いつでもクリアリングハウスに保管されている。さらに、アメリカの高等教育に一定期間かかわりをもった7,500万を越える学生のデータベースがあり、それは拡大しつづけている。拡大しつづけていると言うのは、もちろん新しい機関が毎年自発的にクリアリングハウスに加わるためだが、そればかりでなく、高校

を卒業して大学生になる者が毎年約250万人ずつ増えるからである。このようにして、データベースは常に拡大している。

### 2.2 データの特徴：完全、最新、包括、确实

クリアリングハウスの入手しているデータが、とくに個々の機関内で個別情報を扱う機関調査担当者 (institutional researchers) の関心を引く理由は、4つの要因、すなわち完全で、最新で、包括的かつ确实なデータという要因を満たしているためだと考えてよいだろう。

第一に、クリアリングハウスは完全な (complete) データを所有している。それは、学生ローンを借りているか否かにかかわらず、当該高等教育機関で授業を履修し、単位 (credit) の取得を目ざしているすべての学生について、クリアリングハウスに情報が提供されていることを意味する。学籍登録しているすべての学生の情報が、なぜクリアリングハウスに記録される必要があるかは、次の例をみれば明白であろう。

ある大学に在籍して学生ローンを借りていた学生が、他大学に転学 (transfer) し、そこではローンを借りなかったとする。いずれかの機関に学籍登録している者はローン返還猶予の有資格者になるので、クリアリングハウスは債権者と連邦政府に対して、その情報を伝える必要が生じる。単位を取得した学生全員の情報 CLEARINGHOUSE に送るよう、加入機関に要請しているのはそのためである。

第二に、学期すなわち学籍登録期間ごとに少なくとも3回、学生情報を送ることを加入機関に求めているので、データが最新 (current) である。個々の学生についてクリアリングハウスが有するデータは、すべて30～45日を越えず新しい。

第三に、対象機関に境界を設けていないことから、データが包括的 (comprehensive) である。学生の在籍する機関が州立か私立か、州立であってもどの州の高等教育機関か、あるいは営利の機関かという点は、クリアリングハウスには問題にならない。その理由は、クリアリングハウスはそれらすべての情報を入手していて、説明可能だからである。

最後に第四として、実際のデータであるがゆえに、确实 (conclusive) である。クリアリングハ

ウスのデータは標本調査 (survey) ではなく、確かな裏づけに基づいている。学生がそうしていたならと願う内容でもない。学籍登録を行なったか否か、卒業したか否かという事実のデータである。大学から提供されるデータであるからこそ、完全に正確な情報だと信じることができるのだ。

## 2.3 データの種類

クリアリングハウスが受け取るデータは、いくつかの範疇に分類することができる。基本となるのは、学生データ (student data)、学籍登録データ (enrollment data)、学位・学業成績データ (degree and achievement data) である。

### 2.3.1 学生データ

まず、個人の履歴情報に関する次のデータが集められる。すなわち、学生の氏名、生年月日、社会保障番号 (Social Security Number)、実家の住所 (permanent address)、学校の名称と政府による識別番号 (OPE ID Number) である。社会保障番号は、政府から割り当てられた番号で、一生を通じて個人が所有することになっている。また、学校の識別番号を用いて、クリアリングハウスがどの機関を対象にしているかを特定することが可能になる。

高等教育機関からはさらに、在籍する学生が前に名乗っていたと思われる名も含めて、あらゆる名前が報告される。ある機関でロバートと呼ばれていた者が、次の機関ではボブと呼ばれ、3番目の機関では「RB」(Robert Bobの頭文字: 記者注) と登録されていることもあるからだ。クリアリングハウスでは、個々の学生に関してこれらすべての情報を見失わないように注意している。というのは、学生はある機関から別の機関へと移動するので、クリアリングハウスがデータの照合を行なうときに、学生を間違いなく特定できるようにするためである。

社会保障番号についても同じことがいえる。ある機関が社会保障番号を入力するときに打ち間違いをして、しばらくの間は気がつかなかったものの、数か月か半年後に訂正されることがある。この場合にクリアリングハウスは、両方の番号を受け取る。誤った社会保障番号の下での記録と、現在の正しい番号での記録が存在しているからであ

る。クリアリングハウスは両方の情報を結びつけて、個々の学生について全体的で完全な姿を捉えなければならない。

### 2.3.2 学位・学業成績データ

学位に関して、クリアリングハウスは次の情報を受け取っている。準学士 (associate)、学士 (baccalaureate)、修士 (master's)、博士 (doctorate) といった学位の名称 (degree title)、学位が授与された日付、学習の重点と専門を表す主専攻と副専攻 (major(s) and minor(s))、取得した学位の等級 (division)、高等教育機関が情報を共有することを望んだ優秀な成績である。たとえば「最優秀」(summa cum laude)、つまり同期生の上位1パーセントにあたる優秀な成績で卒業したか、成績優秀者のためのプログラムを受講したか、全米優等学生友愛会「ファイ・ベータ・カッパ」(Phi Beta Kappa) の会員であるかなど、クリアリングハウスは優秀成績に関する情報も収集し、また提供している。

### 2.3.3 学籍登録データとディレクトリー・ブロック・インディケーター

さらに、「ディレクトリー・ブロック・インディケーター」(directory block indicators) の情報も集めていることに言及しておきたい。クリアリングハウスが有するあらゆる情報は、学生の承諾を得ずに照会者と共有できるという意味から、「ディレクトリー」ないし「公共情報」(public information) と呼ばれている。むしろ学生が「自分にかかわる情報は、いかなる内容のものであれ、誰とも共有されることを望まない」という場合には、高等教育機関は情報をブロック (封鎖) することができる。そうすれば、当該学生の情報が外部と共有されることはまったくない。

とはいえ、実際にブロックする前に、高等教育機関は学生を訪ねて、情報を共有することの社会的重要性について理解を求めるのがふつうである。たとえば、ある学生が高等教育機関に進学し卒業したが、クリアリングハウスのシステム内の情報をブロックしていたと仮定しよう。その後、就職口を探しに行き、この志願者の取得学位が真正であるかを確認するため、雇用者がクリアリングハウスに照会してくる。しかし学生が情報をブロッ

クしていると、この学生についてクリアリングハウスは雇用者に何も伝えることができない。その学生が在学したかを認めることさえ、クリアリングハウスにはできないのだ。結果として、この学生は資格を十分に有するにもかかわらず、仕事を得られないはめに陥ることが懸念される。ブロックされているために、クリアリングハウスのシステム内に当該人物の情報があると認めることができないからである。

このように情報をブロックすると、重大な結果をもたらすおそれがある。そのためブロックをかける前に、たいいていの大学やカレッジは、時間を割くことを厭わず学生を訪問し、ブロックによって生じる負の結果と、また、希望すればいつでもブロックを解除できることを念入りに理解させている。

#### 2.3.4 新しいデータ要素

以上に挙げたデータに加えて、高等教育機関が提供できるいくつかのデータがまだ残されている。その一部は、クリアリングハウスの加入機関が記録してほしいと望んでいたものである。なかでも個々の高等教育機関と全国的規模の双方のレベルで益するのは、学生の現在の主専攻に関するデータないし CIP コード (Classification of Instructional Programs codes) であろう (アメリカ教育省 (U.S. Department of Education) とアメリカ教育統計局 (National Center for Education Statistics) が開発し維持する 6 桁からなる学問分野の分類番号。学生の主専攻、取得学位、履修コース等の特徴をあらわすデータとして用いられる：訳者注)。

学生が、ある大学から別の大学に移った場合に、最初の機関が欲する情報は、その学生が移動先で何を専攻したかである。クリアリングハウスはこれまで、学生が学位を取得した時点の専攻についてのみ情報を集めていたが、高等教育機関は、学生が今何をしようと試みているのか知りたいと望んでいる。学生が途中で退学する理由は多岐にわたるからだ。移動する前の大学で開設されていた専攻を、移動先でも学んでいる学生の転学理由は、その専攻が移動前の大学に設けられていなかった学生の転学理由とは異なるはずである。このように高等教育機関は学生が、なぜ卒業に至らず退学し、どこかに移ってしまったのかを理解する (少

なくとも問題を提起する) ために、自分たちが学生にどのように影響を与えているかを見きわめたいと望み、学生の現在の主専攻をきわめて重要なデータ要素と考えている。

新しい追加のデータ要素としてほかには、高等教育機関の識別番号 (ID)、学生のミドルネーム、学年、高校のコード、大学進学適性テスト (SAT) と米国大学入学学力テスト (American College Testing, ACT) を結合したリスト、新規入学生か否か、フルタイム学生か、目ざしている学位、性別、人種・民族、授業料減額優秀者、機関のメールアドレス、などが挙げられる。これらの中には、明確化を目的としたものと、学生の確認に役立つものが含まれている。

### 3. クリアリングハウスのサービス

次に、クリアリングハウスが現在提供しているサービスについて説明することにした。クリアリングハウスが開発してきたプログラムはすべて、コア (中核) となる記録システムから派生したものだ。先に述べたように、それは奨学金の記録 (financial aid reporting) である。しかし、クリアリングハウスは当初から、その基本理念が全国的に受け入れられ活用されるならば、これまでに類を見ない学生単位のデータベースを全国規模の舞台で開発したいと構想していた。クリアリングハウスの基本理念を支持した人たちは、金融界であれ教育界であれ、学生ローンを借りた学生の現在の状況を記録するにとどまらないデータベースの利用可能性を早くから指摘していた。それゆえ、学生にも商業・教育界にも必要とされるサービスを提供するには、クリアリングハウスの追加のプログラムとしてどのようなものがあるかを、早い時期に調査し始めた。

#### 3.1 コアから発展したクリアリングハウスのサービス

コア (中核) の記録システムが成功した結果を受けて開発したプログラムとして、次のサービスが挙げられる。「学籍登録証明」(Enrollment Verify), 「学位証明」(Degree Verify), 「学業成績証明書注文」(Transcript Ordering), 「学生追跡」(Student Tracker), 「学生セルフ・サービス」(Student Self Service), 「ローン・ロケーター」(Loan Locator) である。

これらのプログラムの中から、とくに関心が高いと思われるものを採り上げて説明したい。

### 3.1.1 学籍登録証明 (EnrollmentVerify)

商業界には、とくに学生を対象として設計されたサービスを提供するセクターが存在する。なかでもコンピュータ産業、旅行産業、銀行・信用組合産業、住宅産業などにおいて、学生は割引価格を利用することができる。その際に必要とされる唯一の条件は、割引を求めている客が本当に学籍登録をしている現役の学生であるかを、会社側が確認 (verify) できるということだ。学生がハードウェアであれソフトウェアであれコンピュータを購入したいと考え、学籍登録していることを立証できれば、かなり値引きされた価格で手に入れることができる。旅行産業でも、保険産業でさえも同様である。学籍登録していると立証できれば、両親の雇用を通じて提供される、親の健康保険プログラムに加入し続けることが可能だ。しかし、学生の学籍登録を立証することは、雇用者にとっても他のビジネス提供者にとってもきわめて複雑な作業である。そのため、「この学生が現在、学生であることを立証するには、どこに電話をかけて確認すればよいのか」という問題を解決できる、中枢となる組織が必要とされていた。今ではクリアリングハウスの「学籍登録証明」サービスを利用することによって、迅速かつ効率よく、しかもわずかな費用で確認 (validation) することができる。

### 3.1.2 学位証明 (DegreeVerify)

クリアリングハウスのもう一つの重要な売り物は、学業達成の真実性を証明するサービスである。求人を用意している雇用者、身上調査会社、経歴審査代行などはクリアリングハウスに照会すれば、学生ないし既卒者が求職の書類や他の文書に記載した内容が事実であることを確かめることができる。クリアリングハウスに加入している高等教育機関もまた、同校で雇用している職員あるいは求職者の学位・教育資格が正しいことを確認するために、このサービスを利用することができる。

全米人事部協会 (National Association of Human Resources Offices) の情報によれば、控えめな見積もりとして、求職者からの応募書類の35パーセ

ント以上に何らかの偽りあるいは粉飾された情報が含まれ、その多くは学業達成に関係しているらしい。この数値が本当かどうか疑問に思っていたが、ある日クリアリングハウスに職の空きができ、求人したところ25名ほど応募してきた。そのうち3名は、求職書類に学位情報を偽って記載していたのである。面接時にわれわれがまず尋ねたことは、「当社がここで何を商売にしているかご存知ですか」ということだった。驚いたことに虚偽が露見した事実を突きつけられても、彼らは弁解しようとするように答えた。「事実でないというわけではありません。異なる2機関の間の共同プログラムなのです。」と。

ここで名を挙げられた2つの機関は、どちらもクリアリングハウスの理事会メンバーであったからすぐさま電話をかけ、そのような共同プログラムは設けられていないことが判明した。これはまったく仰天するような出来事であったが、期せずしてわれわれ自身の経験から、全米人事部協会が示した情報の信憑性が確かめられる結果となった。35パーセントという数値は、おそらくかなり正確で、間違いないと思われる。悲しい事実である。

この類いの偽造が起こりうる理由は、4、5校への照会では収まらず、もしかすると全米の6,000に及ぶ機関に連絡して、「こういう学生は在籍していたか」、「その学生は卒業したか」などと尋ねなければならないからだ。これは雇用者にとって、まったく厄介なプロセスである。

しかし今ではクリアリングハウスの「学位証明」サービスに接触するだけで、基本的にアメリカ全土にわたって学位情報を確認することができる。このサービスは、教育的にも費用の面でも採算が合うもので、雇用者が「応募書類をより厳密にチェックする」と発言する根拠につながっている。こうした言動が広く伝われば、応募書類に虚偽の記載をする意味はなくなるはずだ。そこにこそ、クリアリングハウスが実行してきたことの意義が反映されていると確信する。

### 3.1.3 サービスの迅速性と簡便性

クリアリングハウスのサービスは、1日24時間、週7日、1年365日いつでも利用可能で、照合を希望する者はだれでもアクセスすることができる。

学生がサービスを利用するときに、大学の学籍係 (registrar) や奨学金係 (financial aid office) に申し込みをする必要はない。情報は電子的に提供され、コンピュータの監査証跡 (audit trail) はすべて保存される。そうして大学、カレッジの職員が、監査情報を完全にオンラインで利用できるように配慮されている。さらにこれらのサービスは、加入機関と学生にはすべて無料で提供されている。

その結果、クリアリングハウスを外部委託業者 (outsourcing agent) として利用することによって、高等教育機関が手にする利益は甚大である。実際にクリアリングハウスに寄せられたコメントからいくつか紹介したい。

サンフランシスコ州立大学 (San Francisco State University) の学籍係からは、次の意見が届いた。「クリアリングハウスのおかげで、費用をかけずに手際よく作業するという目的が達せられている。職員は時間を取り戻し、これまで手をつけられずに放ってあった他の仕事に従事することができるようになった」。このように大学は、学生が予約なしに立ち寄ったり、電話や郵便を寄こしてくるためにやり取りに費やしていた人的資源や他の資源を、別の作業に振り向けることができる。

もう一つの例は、テキサス A&M 大学 (Texas A&M University) の学籍係補佐員からのコメントである。「わたしたちは限られた資源を創造的に活用する方法を見出す必要に迫られていた。というのも、学籍登録した44,000人もの学生の要求に、5人の職員だけで応えなければならないからである。そのうえに卒業生や他の要求が加わることはいうまでもない。そうしたときにクリアリングハウスは、申し分のない解決策を提供してくれた。12月に学位証明 (DegreeVerify) サービスを利用し始めると、違いはすぐに明らかになった。1月は1年で最初の忙しい月であるが、真正の確認 (verification) を求める579件の電話をクリアリングハウスに転送することができた。職員は大喜びだった」。

こうして取り戻された資源は、現実問題として担当部署の予算増加に通ずる。一つには、少ない労力で多くを得ることができるからだ。さらに、クリアリングハウスが依頼者に請求する公称 (nominal) の手数料に加えて、サービス提供の対価として加入機関が望めばサービス料金を課すこ

とも認められている。このようにして加入機関は、クリアリングハウスのサービスを収入源に変えることができる。クリアリングハウスは総額を徴収し、基本料金に付加されたサービス料に当たる部分を個々の機関に払い戻す。こうして生み出された収入は、大学本部あるいは担当部署に戻されるのである。

### 3.1.4 学生追跡 (StudentTracker)

クリアリングハウスのサービスの中で、最も興味深く、急成長を遂げているプログラムの一つは、「学生追跡」サービスであろう。この調査ツールを用いれば、入学予定の、現役の、過去の学生について、アメリカ全土の高等教育機関での学籍登録、卒業、学位の情報を追跡することができる。このサービスの仕組みは次のとおりである。

依頼者は、調査対象とする学生コホート (cohort 同種の性格をもった集団：訳者注) を集めて整理し、適切な識別情報を記したファイルをクリアリングハウスに送る。識別情報は、学生の氏名、生年月日、高等教育機関に学籍登録をした最新の日付などである。たとえば、2002年に初めて学籍登録したフルタイム学生をコホートと仮定しよう。クリアリングハウスは全国7,500万人の学生記録データベースとそのコホートを照合し、どのような情報があるかを調べて、学生追跡記録として編集する。次に依頼者に、クリアリングハウスの安全なファイル転送プロトコル (File Transfer Protocol, FTP) のアカウントから、学生単位でデータ検索情報を引き出せることを電子メールで通知する。こうして依頼者は、個々の学生についてウェブサイトを通してデータベースの検索を行ない、そのデータを独自のデータベースに付け加えることが可能になる。

クリアリングハウスが重宝がられている理由の一つは、高等教育機関が実際にデータを検索できることにある。クリアリングハウスのデータベースは奥行は1インチしかないが幅は1マイルに及ぶ、とよく冗談で言うのだが、おわかりのように収集しているデータ要素は数としては多くない。豊富なデータベースをもっているのは、個々の高等教育機関である。そこには、学生の総合成績評価 (grades)、テストの点数 (test scores)、社会的な情報などが蓄積されている。クリアリン

グハウスが情報を送り返すと、大学は独自のデータベースの情報にそれを追加する。そうして得られデータを選別して、これから対処しようとしている問題の核心や、特徴を見きわめて何らかの決定を下そうと考えている学生の把握に取りかかることができる。

「学生追跡」サービスがどのように利用されているか、すべてをここに示すことはできない。いくつか例を挙げるにとどめたい。まず、高等教育機関が、学籍登録の重要な傾向とタイプを確認するために用いられている。学生募集の競合相手を知り、入学志望者の的を絞り、選抜し、途中で離学する者を減らし、卒業率を高める能力を向上させるためにも利用される。連邦政府から提出を求められる種々の記録の要件を満たすために、また、学生ローンのコホート未返還率 (cohort default rates) を確認し修正するために、カリキュラムの部分的な変更と機関間の提携を計画するために利用される。高等学校の行政職員にその卒業生の状況を示したり、奨学金 (scholarship, grant) の給付組織に確かな学籍登録情報を提供するためにも用いられる。全国的な傾向を示すデータを提供するために、さらに天災あるいは人災に見舞われたときに高等教育機関が被害に対処するためにも役立てられる。これはまれな用途であるが、2005年8月にアメリカ南部がハリケーン・カトリーナ (Hurricane Katrina) に襲われたときに、この「学生追跡」サービスは大いに能力を発揮した。

## 3.2 大災害とクリアリングハウス

### 3.2.1 ハリケーン・カトリーナ

ハリケーン・カトリーナの暴風雨とそれに続く洪水によって、ニューオーリンズをはじめとする南部の数多くの大学は荒廃し、秋学期の開講がむずかしい状況に陥った。文字どおりに何万人もの学生が、1日か2日のうちに言わば教育上の流民となってしまった。このようなときに高等教育機関の間ではよく起きることだが、大学関係者が協同の精神 (collegiality) を発揮し、千を超す機関が門を開いて、行き場を失った学生を一時的に受け入れ学籍登録を行なった。その一方で、やむなく休校した大学の学務管理者は、「当校の学生はどこに行ってしまったのか」という問題に頭を抱えることになった。同じ問題は、連邦と州のレベル

の関係組織でも生じた。

こうした状況下でクリアリングハウスは、カトリーナで閉鎖された大学を離れ、実に全州にわたって学籍登録していた18,000人を超える学生の居所をおよそ45日以内に突きとめて報告した。これによって行政職員は、流民となっていた自校の学生と連絡を取り、大学が再開されるまでの動きを聞いて、最新情報に更新することができた。居所を失った学生を支援するのに、連邦政府の援助がどれほど必要かについて、連邦政府にとってベンチマークとなる基準数値も示された。

大学が閉鎖されていた数か月の間も、クリアリングハウスは授与された学位が真正であることを証明し、学業成績証明書 (academic transcript) の複写を求める学生の依頼に応え続けた。ニューオーリンズ大学 (University of New Orleans) の学籍係からの言葉を引用しよう。

「クリアリングハウスのサービスを利用することは、作業をするうえで残されていた唯一の方法だった。郵便が届かなかったので、郵便物で学生からの成績証明書の複写依頼や、学籍登録証明、学位証明の依頼を受けることはむずかしく、ただオンラインのみで可能だった。クリアリングハウスのコア・システムによって、学生をローンの返還から免れさせることができた。

本校には、他校への転学や進学を考え、少なくとも一時的であれ努力している学生、卒業生が多い。また、職を得ようと必死になって成績証明書を必要としている者も多い。クリアリングハウスのおかげで、こうした要求に応えることができた。このオフィスを復旧させ運営するために、クリアリングハウスとの関係を利用し助けを借りないなどということは、一瞬たりとも思わなかった。クリアリングハウスは500マイル離れた地で活動しているにもかかわらず、オフィスの復旧に大いに力を貸してくれた」。

カトリーナのような大災害の結果、このような荒廃が生じたが、学生の記録保存の責任という点から見ると、ナショナル・ステューデント・クリアリングハウスの存在によって被害は大いに緩和されたと言ってよいであろう。

### 3.2.2 学生追跡—複数機関在籍者の把握

「学生追跡」サービスもまた、学生に関する情

報を全国規模で把握するのに役立つ。一例として、ユタ州にあるブリガム・ヤング大学 (Brigham Young University, BYU) から、クリアリングハウスに次のような依頼があった。2001/2002年度の秋・冬学期にブリガム・ヤング大学に学籍登録し、キャンパスで授業科目を履修しているが、しかし同時に他大学が提供するコースも履修している学生の数を調査してほしい、と。

驚いたことに、同大学のキャンパスで授業に出ながら、他の機関でも単位を取得している学生が96人もいた。履修先の機関は近隣の通りを越えたところにあるとはかぎらず、ユタ州立大学 (Utah State University), ユタ・ヴァリー州立大学の遠隔教育 (Utah Valley State College Distance Education, UVSC) 同大学は2008年7月1日より州立ユタ・ヴァリー大学 (Utah Valley University) に名称変更：(訳者注), 州立ユタ大学 (The University of Utah) などユタ州内の大学はもとより、州立ネバダ大学ラスベガス校 (University of Nevada, Las Vegas, UNLV), スタンフォード大学 (Stanford University), 州立ネブラスカ大学 (University of Nebraska), ニューヨーク大学 (New York University), イェール大学 (Yale University), アイダホ州立大学 (Idaho State University) など、全米の96機関にわたっていた。

クリアリングハウスのデータベースを用いて一つの高等教育機関でなしうることは、地域的、あるいは全国的段階でも容易に行なうことができる。同時に複数の機関に学籍登録するという全国的な現象は、インターネットを介してウェブ・ベースの教育課程 (courses) を提供する大学の数が劇的に増加したことによって、飛躍的に高まった。

### 3.3 全国規模の学生追跡と卒業率調査

クリアリングハウスは、高等教育機関の別の側面を全国規模で調査したいと考えている研究組織とも関係を築いている。全米高等教育経営組織センター (National Center for Higher Education Management Systems, NCHEMS) と全国公共政策・高等教育センター (National Center for Public Policy and Higher Education) はクリアリングハウスと協力して、ケンタッキー、ミネソタ、ネバダ、ニューヨーク、ワシントンの5州で1998年と1999年に新規に入学した学生の cohorts を、クリアリ

ングハウスのシステムを用いて作成した。各州の cohorts について卒業率が報告され、卒業率はさらに異なる3つの方法で報告される。第一に、最初に学籍登録した機関で卒業に至った学生の割合、第二に、同じ州内の別の機関に転学し、そこで卒業した学生の割合、第三に、他の州に移り、そこで学業を終えて卒業した学生の割合である。

こうした卒業率調査が意図するところは、卒業率に州の、最終的には全国の学生追跡情報を含めることによって、個々の機関が IPEDS (Integrated Postsecondary Education Data System) アメリカの中等後教育統合データシステム。連邦教育省の全米教育統計センター (National Center for Education Statistics, NCES) の中等後教育データ収集プログラム：(訳者注) に報告する標準卒業率よりも、卒業に関して改良された報告義務を果たせることにある。その結果、全国的に何が起きているか、どれくらいの学生が実際に肯定的な教育経験を有しているかについて、はるかに正確な全体像を卒業率から描くことができる。

#### 3.3.1 ブルームとカユガのコミュニティーカレッジ

次に挙げる例はそれほど劇的なものとは言えないが、高等教育機関が教育の成果を評価する際に、クリアリングハウスの「学生追跡」サービスがどのように役立てられるかをよく表しているであろう。

2年制の高等教育機関にとって重大な評価は、どれほどの学生が4年制大学に進学する準備ができていたか、という点にある。ニューヨーク州のブルーム・コミュニティーカレッジ (Broome Community College) とカユガ・コミュニティーカレッジ (Cayuga Community College) は、どちらも州立大学システム (state university system) に属し、この2校を含む64の機関とキャンパスから成るニューヨーク州立大学 (State University of New York, SUNY) は、全米最大の公立高等教育システムとして知られている。この州立大学システムを利用して、2年制コミュニティーカレッジから4年制大学に進む道が開かれている。

他の数多くの2年制カレッジと同じように、ブルームとカユガの2つのコミュニティーカレッジにとってきわめて重要なことは、4年制大学に進

表1 ブルームとカユガのコミュニティー・カレッジから4年制への移動者数  
(ニューヨーク州立大学とそれ以外の機関)

年	ブルーム・コミュニティーカレッジ (BCC)			カユガ・コミュニティーカレッジ (CCC)		
	BCCの 学生数	BCCから ニューヨーク州 立大学への移動	BCCからニューヨーク 州立大学と州立大学シ ステム以外への移動	CCCの 学生数	CCCから ニューヨーク州 立大学への移動	CCCからニューヨーク 州立大学と州立大学シ ステム以外への移動
1996	1,527	281	566	1,087	237	496
1997	1,616	302	572	1,042	255	537
1998	1,737	275	558	1,147	254	531
1999	1,718	217	512	1,154	219	488
2000	1,637	121	373	1,028	98	261
移動数		1,196	2,581		1,063	2,313

学したと責任をもって報告できる学生数を相当に増やすことであった。ニューヨーク州立大学の組織網を用いて、進学した学生数を確認したところ、1996年から5年の間にブルームで1,200名弱、カユガで1,100名弱の学生が退学した後、いずれかの4年制の機関に学籍登録していることが報告された。ところが、同じ情報をクリアリングハウスと共有してみると、両方の事例について倍の数値であることが明らかになった。州立大学システムを離れて私立大学に移ったか、あるいはニューヨーク州から別の州に移り、しかし移動先でまだ教育を受けている学生がいたからである。

このように、2年制の機関は自校の学生が今どうしているかを知ること非常に興味をもっている。より向上したいと願う学生が準備するのを助けて、学士の学位を取得させ、さらに上の大学院の学位を得る手助けをすることが、2年制機関の使命の一部と考えられているからである。

### 3.3.2 ウェスタン・ミシガン大学

別の例として、ウェスタン・ミシガン大学 (Western Michigan University) は、一定の期間にどれくらいの学生が他の大学に移動し、そこで学士の学位を得て卒業したかに関心をもった。1995年に新規学生として学籍登録し、学位取得を目ざしたフルタイムの学生の6年後の状況を見るために、ウェスタン・ミシガン大学からクリアリングハウスに送られてきたコホートを調べた結果は、同大学で卒業した者が53パーセント、他大学に移動した者が20パーセント、まだ在学中の者が3パーセント、不明24パーセントであった。他大学に移った学生をさらに詳しく調べたところ、上

首尾に卒業した者が4分の1、卒業していない者が4分の3であった。

こうした情報をウェスタン・ミシガン大学が求めた理由は、移動した学生の成功に、同大学で取得された単位がいくらか寄与したと考えたためであった。厳密に言えばどこか別の機関で卒業したとはいえ、そうした学生が学位を得るにあたって、ウェスタン・ミシガン大学の教育が重要な一翼を担ったことは間違いない。

### 3.3.3 ワシントン大学

最後に、ワシントン大学 (University of Washington) の例を挙げて締めくくりとしよう。ワシントン大学では2001年の秋学期に11,523人の志願者に入学を許可したが、学籍登録したのは5,382人であった。つまり、残りの6,141人は、他の高等教育機関に入学したと考えられる。ワシントン大学以外のどこに進学したのであろうか。

コンピュータ・サイエンス学部の教授陣は、高い才能をもった生徒を高校から獲得し、ワシントン大学に入学させようと学生募集に熱心に取り組んでいた。しかし、入学を許可したにもかかわらずワシントン大学を選択しなかった学生がいることをいぶかしく思った学部長は、教授陣にその理由を尋ねた。教授陣は思いつくかぎり名声が高い大学の名を挙げて、ハーバード、マサチューセッツ工科、スタンフォード、イェールに進学したのだらうと答えた。実際にどのような状況であったかを把握するために、学籍係はクリアリングハウスにデータを送り、そこから次のような真相が明らかになった。

コンピュータ・サイエンス専攻の志望者は、ウェ

スタン・ワシントン大学 (Western Washington University, WWU), ワシントン州立大学 (Washington State University, WSU), カリフォルニア大学サンディエゴ校 (University of California, San Diego), シアトル大学 (Seattle University), カーネギー・メロン大学 (Carnegie Mellon) などに進学していた。また、少数民族の志願者は、モアハウス・カレッジ (Morehouse College), ハーバード大学 (Harvard University), オクシデンタル・カレッジ (Occidental College), シアトル大学 (Seattle University), ハワード大学 (Howard University), 南カリフォルニア大学 (University of Southern California, USC), ベルビュー・コミュニティカレッジ (Bellvue Community College) などに進学していた。これらのごく一部を抽出したにすぎず、進学した機関はきわめて多岐にわたっていた。

学籍係の関心を大いに引いたのは、なかでもコミュニティカレッジのグループであった。ワシントン大学の関係者が興味をもった非入学者の追跡記録をたどると、現実にはコミュニティカレッジに学籍登録していたことが判明した。コミュニティカレッジに進学する理由はさまざまであろう。学費に関係していることもある。コミュニティカレッジの授業料は、大学ほど高額ではないためだ。あるいは、息子や娘を広い世界に送り出す前に、自宅から近い場所で最初の経験をさせたいと両親が望むことも一つの理由であろう。

こうした情報は、学籍登録担当者にとっては初めて知る刺激に富んだ内容であった。これらの非入学者に対する関心は変わらなかったことから、彼らを学生募集の対象に含めて、コミュニティカレッジを終えた後にワシントン大学に進学し、コンピュータ・サイエンス課程の一員になってほしいと勧誘した。クリアリングハウスからの情報を得なければ、ワシントン大学に入学しなかった者が実際にどこに入学し、何をしているのか見当もつかず、見失われてしまったであろう。情報を得たことによって、少なくともそうした学生に温かく接し、ゆくゆくはワシントン大学に進んで学籍登録し、学位を得て卒業するように仕向けることができたのだ。

ナショナル・スチューデント・クリアリングハ

ウスとはどのような組織であるか。以上がその概要である。

本稿は、大学評価・学位授与機構学位審査研究部主催のシンポジウム「ユニバーサル時代の学習履歴と学位」(2007年3月27日)における講演を論稿にまとめたものである。

(受稿日 平成21年3月12日)

(受理日 平成21年4月20日)

[ABSTRACT]

## National Student Clearinghouse: Background and Services

Jeffery M. TANNER \*, Translated by YOSHIKAWA Yumiko \*\*

The National Student Clearinghouse is the nation's trusted source for student degree and enrollment verification. A non-profit organization established by the higher education community in 1993, the Clearinghouse serves as a central repository and single point of contact for the collection and timely exchange of accurate and comprehensive enrollment, degree, diploma, and certificate records on behalf of participating postsecondary and secondary institutions.

The Clearinghouse serves the nation's educational community by:

- Maintaining an electronic registry containing 93 million student records, more than any other single source
- Providing secure and accurate online verifications to more than 10,000 verifying entities each year, including most major employers, student service providers, insurance companies, credit issuers, the U.S. Department of Education, and others
- Performing over 100 million electronic student record verifications annually

More than 3,100 colleges, enrolling 91% of US college students, and hundreds of high school districts nationwide have partnered with the Clearinghouse and participate in our programs.

All of our programs are designed to reduce the administrative burden of providing educational record verification that is faced by educational institutions, while maintaining the confidentiality and privacy of records in our care in full compliance with the Family Educational Rights and Privacy Act (FERPA).

The Clearinghouse's more than 15-year track record of providing automated student enrollment and degree verifications has made it the education community's most trusted partner for outsourced verification services and more. For more information, visit [www.studentclearinghouse.org](http://www.studentclearinghouse.org).

---

\* Vice-President, National Student Clearinghouse

\*\* Professor, Department of Assessment and Research for Degree Awarding, National Institution for Academic Degrees and University Evaluation